

建築情報研究室\_研究室リテラシー?(19)

「研究室の大儀」

建築都市デザインの未来を切り拓く  
建築家をクロス， 建築もクロス  
人・建築・都市の拡張

[satoshi-bon.jp/2019/04/02/cande/](https://satoshi-bon.jp/2019/04/02/cande/)

「教員は研究室の大義を通じて何を身に着けて欲しいのか」

知的好奇心を燃料とする探求行動と制作実践，知的体力（耐力）  
楽しさのお裾分け，というスタイル

今の所けっこうイイ感じなのは！？

- 新しいことに挑戦することを楽しむ，嫌がらない
  - 新しいことを学ぶ・知ることの楽しさを思い出して，続けて欲しい
- 楽しさの結果としての成果がある
  - 着地点は進みながら変化するが，楽しく力を注いだことは必ず着地できる。
- 意欲を持てることに取り組む，価値あることはたいてい難しいので。
  - 共通的に知っておくべきことの先に面白そうなことがある
- 今見えているものを変える，位の意欲が最終到達点を引き上げる。
  - 思考停止は厳禁，何故？本当に？と懐疑的に自問する
  - 既存が間違っていることもある。既存が変わることもある。既往でそうだった，先輩が，先生が，というだけは理由にならない。
- 直感やひらめきは大事，けっこう正しい。
  - 思い付いたら発言する（「くだらないことを，，，」とは絶対に怒りません）
  - 努力と経験がインスピレーションを支援する
- リラックス，余力もインスピレーションには必要
  - 疲れているとインスピレーションは鈍る＋間違いも多くなる
  - 徹夜の短期作業は無駄が多い，計画的に取り組む，出来るだけ

「教員はどのような研究室を目指しているのか」

一人一人が自立した種となり価値に共感したチームでことを成す

というスタイルが僕の思いとは関係なく大切で有用でもある  
なのでこのようなチームにチーム毎に発表して共有＋意見交換する

- 次回から順番に全体ゼミでは班で取り組み内容・レビューの発表＞情報共有＋意見交換
  - AI
  - VR
  - IoT, MAS, 都市
  - 以下, 続く
- 深く掘るためには穴の広さも大切, 垂直掘りの方が難しい
  - 深く掘るために, 穴を広げる・いくつかを掘る, という手段を用いることも多い
- 友達は資産として作る訳ではないけど, 資産になる。大切に。
- いかにリンクさせるかを常に意識する

## 卒業研究/修士研究って何だ？

人類の知に貢献する学術研究という学習機会  
楽しさが原動力だけど、それだけではない＞自由研究とは違う

- ①好きなことを，②好きな場所で，③好きな時に，④好きな方法でやる訳ではない

- ①：意義を共感できるものに取り組む。登る山は相談して決める，好き勝手に決める訳ではない。
- ②人は環境に依存する。
  - オフィスは意外と効率が良い。主たる作業環境はオフィス，オフィスで成果を挙げられるのも重要な能力。
  - でもずっと居る必要はない。複数を使い分けた方がいい。オフィス，自宅，外，など。
- ③習慣的にリズム良く取り組む方が効率的。勤務時間内に成果を挙げるのも重要な能力。
  - ただし，ずっと学業（業務）だけする必要はない。課外活動もする。（教員も勿論している）
- ④無意識のバイアスが人には働く。
  - 自分が考える自身の成長方法・取り組みは半分正解，でも半分は間違いかも，と認識しておく。



卒業研究/修士研究ってどんな感じだ？

山登り？  
(ハイキングではなく登山)

- **どの山に？**
  - 相談して決める。
  - 先生もその山に登ったことはない。ただ似ている山に登ったことはあるので助言が可能
- **どのルートで？**
  - ルートはたくさんあり，ルートも相談して決める。
  - 一緒に下山することもある。ヘリコプターやロープウェイはない。
  - **回り道に無駄はない，道を探した・寄り道の「経験」が大切。** 回り道だったことは頂上に立って初めて分かる。
- 計画的に登る。そうでないと登れない。
  - 山は高いので一人では登れない。

取り組み時に大切なことって何だ？

パフォーマンス最大化

必要最低限のパフォーマンスを狙って、コストの最小化を狙うのは無駄でつまらない。

パフォーマンス最大化って例えば何だ？

相談時間はお互いに密度高く有効に使う  
前後が半分, その場が半分

- 前：結果，プロセス，聞きたいこと，を整理する
  - 個別ゼミでは「個別ゼミ」フォルダに説明用資料（形式自由で作成）と関連資料を事前にアップ
  - 全体ゼミでの発表では「全体ゼミ」フォルダにスライドと関連資料を事前にアップ
  - 「チーム名」フォルダに「日付\_短めの説明」の名前を付けたフォルダを作成して入れること
  - 説明用資料・スライドは各自で工夫すること，但しそれだけで伝わるほど作り込む必要はない。（まとめたA4一枚，アンダーラインを引いた資料など）
- 後：次回までの感触を掴むまでが相談。
  - 簡単にできることはすぐあとにやる
  - 簡単でないことも直ぐに感触を掴む
    - 相談の翌日にストップして、次回に直後にストップしていたことの報告は駄目。
  - 17時30分までに相談内容と次回に関する共有メモを作成して僕と確認する。
    - 間に合わなかった場合は20時00分以降に。個別の相談が終わらなかった場合も同様に。
  - 記録方法は任意，箇条書きメモ，手書きの写メでもいい。相談中に書いてもよい

- その場
  - 事前に用意した結果, プロセス, 聞きたいことに基づいて具体的に相談する。
    - ○：結論を示し, 自分の考え, 取り組んだ内容, 手順, なぜそれが起こったかを示す。
    - ×：学生「変えたら上手く行きました！」>教員「よかったけど, 本当に?, , , 」
    - ×：学生「駄目でした」>教員「え, 何がどう？」
    - ×：学生「勉強しました」>教員「え, 何を勉強して何が分って何処まで？」
  - 振り返りから始める, 「前回, 検討事項だったAAについて, BBという助言を貰ったのでそれをやってみました。その結果, , , 」
  - 失敗や困っていることの相談を躊躇しない。超大切な相談事項。怒らない。

そもそも大学の先生って何だ？

先生は味方＋万能ではない

- 会いづらいなあ、という時ほど会いに来てください。
- 先生は味方で基本的に怒らない。僕は怒るのがとても苦手。
  - 怒っているように見えるとき
    - 状況を理解したいとおもって、質問を繰り返して様子の把握に努めている。
    - 2回目・3回目な気がして、なぜ？と疑問に思っている。
    - コミュニケーションが成立していなくて困っている。
  - たまには怒ることもある。
    - 自らの問題意識としてとらえてない、余りにも考えていない
    - 最小解を狙っている、不貞腐れている。
  - 関係のないことでイライラしていることも正直ある。疲れていることも正直ある。
- 試行錯誤の結果としての失敗は怒りの対象では断じてない。



- 万能ではない
  - 間違えることもある。助言に疑問点がある場合は率直に聞く。怒りません。
    - でもオウム返しではない（一般常識）。「えーと、それはこういう意味ですか？」
    - 回答の丸投げもしない（一般常識）。「えーと、こうすればいいですか？」
  - 知らないことも多い。なので、調べて来るように指示する。
  - 後から先生が間違いに気が付くこともしばしばある。なので先生の話は変わる。
  - 経緯を忘れてしまうこともある。なので議事録の作成＋簡単な振り返りから相談を開始。
  - 卒業と学習の手助けをしたい。卒業を妨げようとは決して思っていない。
    - 無理なことはさせないし強制力もない。
- 先生は教育者であり、研究者であり、ときに実務家である。
  - いい研究を通じたいい教育、いい教育を通じたいい研究、を一緒にしたい。
  - 共同研究、デザイン系の実務もしている。研究室の題材になることもある。

突然事務的だけど、活動を気持ち良くするために約束して欲しいこと

連絡方法のルール（学生中には何故かできないことのトップ2！）

- 遅くとも24時間以内に何かしら返信する。
  - 「これこれをやっておいてください（今は出来ないこと）」
    - ×学生「（わかったので返信しなくていいや）」
    - ○学生「はいわかりました。いついつまでにやっておきます」
    - 読まれたかどうかを差出人は確認できないので、返信して安心して貰う。
- やったことは自分から報告すること
  - ×：先生「これこれは？」>学生「え、やりましたよ？」
  - ○：学生「これこれは、あれあれしました」>先生「了解」
  - 上二つは同じ作業でも評価が違う。遅く報告することは大抵無意味。
  - お互いに気持ちよく過ごすために守ってください。社会人の一般ルールです。繰り返し守らないと叱ります。

あと,

必要なものは買える

- 予算は沢山はないが、少ない訳ではない。ただし贅沢はダメ
- 1万円以下は自由にとってよい。
  - 購入は全体ゼミで必ず報告する。
- 研究利用に限る。迷ったとき・困ったときは必ず、まず相談。生協での購入が基本。
  - 持ち帰りは駄目、共有スプレッドシートの運用を守ること
- 旅費も出せる
  - 学会発表は全額
  - それ以外は相談、半分や5000円まで、となる。
  - 共有スプレッドシートの運用を守ること

あとあと、

研究室は共有の資産で、お母さんはいない

蛇足になるので細かいことは省略

このスライドを一言でまとめると、

ここは大学である

- 知の蓄積場所であり、源泉
  - 「知」が人類全体で共有されるための場所。新たな知の創造。
  - 先生は知の蓄積を活かして、新たな知の創造を目指している（実は本気で）
  - 建築情報を使って、建築都市デザインの未来を切り拓きましょう
  
- 良くも悪くも大学は時間にルーズ、 、 、 ですが、 時間はそれなりに守りましょう。僕は守ります。事前と当日の連絡を共有スプレッドシートに書くこと



最後に,

研究情報研究室のイベントは誕生日月の人幹事となり自ら企画する, は本当です!  
(僕もやりました)

記憶に残るようなイベントを期待しています!  
変なイベント大歓迎, もちろん普通でもいいです。